

琉球大学学術リポジトリ

地域教材（琉球絃）を生かした中学校家庭科教育実践（2）－4つの動機づけの視点から－

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-06-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 富士栄, 登美子, 多喜, ゆみ子, Fujie, Tomiko, Taki, Yumiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/544

地域教材（琉球絣）を生かした中学校家庭科教育実践(2)

— 4つの動機づけの視点から —

富士栄 登美子*・多喜 ゆみ子**

Educational practice of home economics in a junior high school in Okinawa utilizing Ryukyu Kasuri as teaching materials (part 2) : from the view point of 4 motivations

Tomiko FUJIE* and Yumiko TAKI**

I 緒言

土地の風土や生活そして人間の暮らしの中から文化は生まれる。亜熱帯性気候で育った素材・色・文様から、沖縄の独自の文化を生み出し、美への追究の意志が琉球の絣文化の美を成立させた（富士栄，2005）。このことを踏まえ、筆者らの課題は、琉球絣を地域教材として取り上げ、教育実践へと広げていくことにある。

琉球絣は人々の生活の中に自然にとけ込んでいた。しかし、地域に息づいているにもかかわらず、地域教材として家庭科教育の中で取り上げられることが少ないように思われた。

生活体験、自然体験、社会体験を重視する総合的な学習の時間は、体験の中から理解するという学習である。沖縄島南部の南風原町では、児童生徒に対する伝統工芸品教育事業も始まっている。そのひとつとして中学校では、2001年から職場体験学習を行っており、琉球絣の製作実習体験もあった。また、同町の南星中学校の制服の襟に絣柄が刺繍されており、学校の玄関の広場には、絣の布片がパネルになって160枚程展示され、「絣の広場」と呼ばれている。家庭科教育の授業の中で、地域教材を取り上げることは、児童生徒に興味を起こさせ、関心を持たせ、理解を深めることに役立つことが予想される。

富士栄（2006）は、地域に生きる「琉球絣」を教材とし、動く力（Motivation）を学習者の内

面に発生させるため、家庭科教育の授業の流れの中で、4つのモチベーション（a 初期的動機づけ、b 知識的動機づけ、c 意識的動機づけ、d 行動的動機づけ）を設定し、沖縄県与那原町立与那原中学校に於いて、以下の教育実践を行なった。

日時 2003年12月12日（金）2校時

場所 被服室

学年 与那原中学校第3学年（20名）

科目名 選択家庭

授業者 富士栄登美子

[導入]：琉球舞踊衣裳の実物を提示しながら入っていった。

[展開（動機づけ）]：

- ①日本本土へ絣を伝えたのは沖縄であること（初期的動機づけ）。
- ②絣の歴史を調べ、琉球絣の美しさはどこからくるのか、本土の絣と何がちがうのかを知る（知識的動機づけ）。
- ③絣の文様の意味を知る（知識的動機づけ）。大胆ではとす美しい文様が琉球絣にあったことを教える。クワンカキーは、門構えの許された士族の屋敷などで使われていた門をデザインしたもので、この文様は、一般庶民には使うことは許されていなかった。
- ④絣の図柄は、風土や生活の中から生まれ、絣文化を形成していった（知識的動機づけ）。
- ⑤伝えていきたい素晴らしい文化だと思い、いろいろな琉球の伝統に触れていきたいとの行動へ

*琉球大学教育学部家政教育専修

**近畿大学豊岡短期大学通信教育部非常勤講師

と動き始める（行動的動機づけ）。

⑥沖繩に住んでいる生徒が沖繩の文化に触れること、知ることの大切さを伝え、意識の高まりを狙ったレベルの高い意識的動機づけである（意識的動機づけ）。

授業はポスターの形態をとった。緋の起こりと琉球緋の歴史、琉球緋の素材と図柄、琉球舞踊衣裳に使われている緋、現在使われている緋の例をバックの色を変えて示している。

授業の展開①から⑥の中での動機づけと教育実践を行なった後の生徒たちの反応は以下のとおりであった。

a 初期的動機づけ①・・・「本土に緋を伝えたのが沖繩というのがすごかった。」

b 知識的動機づけ②,③,④・・・「沖繩出身の緋なので、もっと知りたい。」「沖繩に住んでいるのに知らなかったけれど、わかるようになった。」「生活の道具までが模様になると知ってびっくりした。」「緋柄は、生活の中から出ていることを知った。一番気に入ったのは、ミジフム（水雲）で綺麗だと思う。」

c 行動的動機づけ⑤・・・「緋柄はどれも素敵だと思ったし、伝えていきたい素晴らしい文化だと思った。」「これから、いろいろな琉球の伝統に触れていきたい。」

d 意識的動機づけ⑥・・・「沖繩には、このような綺麗な緋がたくさんあるので誇りに思う。」

各動機づけの教育実践によって、実践前は「見たことはある」程度であった琉球緋の知識や関心度は一定程度高まった。ただし、導入部での舞踊衣裳の実物提示は、初期的動機づけには効果があったが、行動的動機づけへとつなげるためには、中学生にとってより身近な実物提示（ペンケースなど）の方がよかったと考える。

以上が富士栄（2006）の教育実践であるが、その実践は1回のみであったため、その後、多喜（2006, MS）は引き続き地域教材を生かした家庭科教育の授業実践（後述）を行なった。富士栄（2006）の教育実践は、生徒に「沖繩で生まれた文化に誇りをもたせる」ことを目的とし、上述したように4つの動機づけ（A. 初期的動機づけ（驚きや意外性を生徒が感じる）、B. 知識的動機づけ（もっと知りたいと思う）、C. 行動的動機

づけ（生徒がその文化を伝えていこうと思う）、D. 意識的動機づけ（沖繩で生まれた文化に誇りが持てる）というA～Dの構成で授業を行なった。しかし、多喜（2006, MS）では「地域の文化を伝えていきたい」という行動へつなげる力を生徒の内面に発生させることを目的としているため、CとDの構成を入れ替えて授業実践を行なった。

本研究は、中学校家庭科教育で地域教材として琉球緋を取り上げ授業実践することで、生徒が地域に興味・関心を持ち、地域の文化に誇りを持ち、その文化を伝えていきたいという行動へとつなげる力を生徒の内面に発生させることを目的とする。

本稿は富士栄（2006）の教育実践をベースに、多喜（2006, MS）の教育実践を考察し、それらをまとめたものである。

II 研究の方法

1. 緋の歴史と南風原町に於ける琉球緋の歴史に関する文献検索
2. 1995年から2005年度までの日本家庭科教育学会誌、家庭科教育（月刊）、家庭科研究（月刊）の全国の地域に関する家庭科の授業実践調査
3. 琉球緋の知識度調査及び授業実践前と授業実践後の動機づけに関するアンケート調査
 - (1) 2004年5月、対象：南星中学校（348名）、南風原中学校（703名）、与那原中学校（303名）
 - (2) 2005年5月、対象：与那原中学校1年生（102名）、2005年11月、対象：南星中学校2年生（179名）
4. 授業実践
 - ・南風原町立南星中学校「技術・家庭科（家庭分野）」2年生：2004年5月（2組）、2005年11月7日～11日（1～5組（全クラス））計6回（計214名）
 - ・与那原町立与那原中学校「技術・家庭科（家庭分野）」1年生：2005年5月23・25・26日（4.5.6組）計3回（計102名）

南星中学校と与那原中学校の生徒に対し、地域教材として琉球緋を用い授業の導入部に初期的動機づけ、展開に知識的動機づけと意識的動機づけ、終末部を行動的動機づけで構成し実施した。

5. 授業効果の検討

授業前後のアンケート調査をt検定によって
 (1) 地域教材を用いた4つの動機づけの効果を
 検討する。また、(2) 生徒の文章記述から南星
 中学校と与那原中学校の生徒の琉球絣を用いた4
 つの動機づけの授業効果について比較し検討する。

III 中学校家庭科教育に於ける授業実践

1. 授業実践前の生徒の琉球絣に関する知識調査の結果

授業実践前に行なった琉球絣に関する知識調査

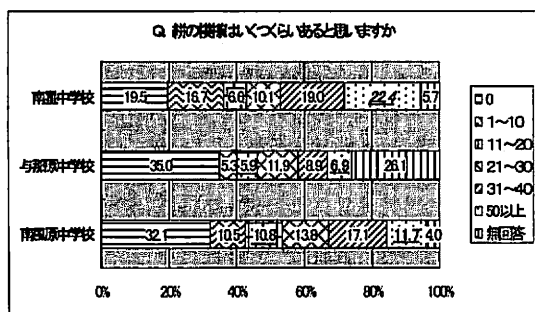


図1 知っている琉球絣の模様数について

表1 知っている絣模様（複数回答可） (人)

絣模様の名称	南星中学校 (348)	南風原中学校 351(703)	与那原中学校 (303)
1 カーヌティカー（井戸の枠）	24	93(186)	9
2 トウイグワー（千鳥）	10	33(65)	1
3 ジンダマー（銭玉）	3	14(28)	1
4 フタダン（二段）	1	1(1)	1

(補)：南風原中学校の総人数は703人だが、南星中学校、与那原中学校と比較するため、人数を1/2で示した。南風原中学校の()で示した人数は正規の人数である。

査によると、絣の模様数についても南星中学校の生徒は隣町の与那原中学校や南風原中学校の生徒に比べると50以上あると答えた生徒が多かった(図1)が、知っている絣模様は12種類と少なく、生徒が答えた絣模様も3種類に集中していて多くの生徒は答えることができていなかった(表1)。南星中学校の生徒は琉球絣のパネルが展示されたロビーがあるため琉球絣の模様は数多くあること

を知っているが、どのような模様があり、模様の名前がついていることを知らない生徒が多かった。

2. 授業実践と4つの動機づけ

中学校家庭科学習指導案：(南風原町立南星中学校)

日時：2005年11月7日(月)～11月11日(金)

場所：南星中学校被服教室

学年：2年1組～5組(計179名)

授業者：多喜ゆみ子

(1) 題材名

地域教材(琉球絣)への興味・関心を高め、生活に取り入れてみよう(B-6)

(2) 題材の目標

南風原町は、沖縄の琉球絣生産の約90%を占める産地である。そのため、南風原町で“絣”は、その風景の中に自然に溶け込んでいる。沖縄の生活文化の中の民芸品である琉球絣の歴史を知りその美しさ等に気づき、理解することで琉球絣に対し興味・関心を持ち、生活の場に取り入れ、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を育てる。

(3) 題材の評価規準

①生活への関心・意欲・態度

ア. 南風原町で絣が織られるようになった時期について関心を持っている。

イ. 本土の絣について関心を持ち、沖縄独自の琉球絣の特徴について考えようとしている。

ウ. 絣模様について関心を持ち、その成り立ちや意味を考えようとしている。

②生活を工夫し、創造する能力

絣を使った小物や洋服を自分なりに工夫し、生活のあらゆる場に取り入れようとしている。

③生活や技術についての知識・理解

ア. 南風原町の特産品である琉球絣の歴史や美しさ、特徴について理解している。

イ. 着物以外の絣を使った小物やタペストリー等の存在を認識している。

(4) 指導計画(4時間)

①地域教材の興味関心を高めよう

.....1時間(本時)

②琉球絣を通して高齢者と対話しよう

.....1時間

③環境や資源を考えたライフスタイル
..... 2時間

(5) 本時

- ①小題材名：琉球絣を知って、生活の中に取り入れてみよう。
- ②目標：琉球絣歴史や素材、模様などの特徴や美しさを理解することで興味・関心をもち衣生活の中に取り入れられるようにする。
- ③学習の展開

<動機づけ>

- ⑦. 初期的動機づけ：学習に興味を持つ（アッと驚く）ような動機づけ。 **導入**

初期的動機づけは、琉球絣の布を用いて作られたアクセサリーや小物などの実物を用いて行なった。図2は、授業者が琉球絣の着物を身に付け、生徒に実際に近くで見せたり、触れたりしている様子。着物に触れた生徒のほとんどが「意外とざらざらしている」という感想だった。琉球絣の実物を見たことはあるが、触れたことのない生徒が多かった。



図2 初期的動機づけ
(撮影：富士栄登美子、以下同様)

- ①. 知識的動機づけ：題材の知識を得る動機づけ。 **展開**
- ②. 意識的動機づけ：地域の文化を誇りに感じるができるような動機づけ。 **展開**

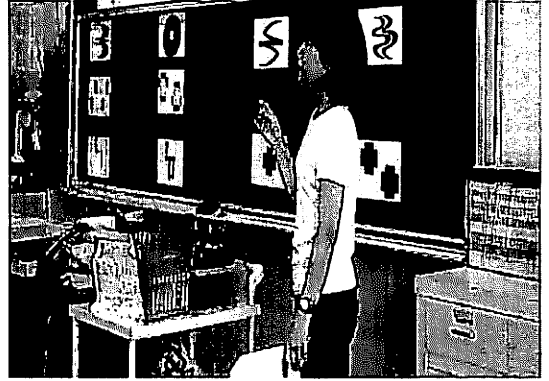


図3 知識的動機づけ・意識的動機づけ

知識的動機づけ・意識的動機づけは、南風原町の琉球絣の歴史や図3から図5で示したような、琉球絣の大きな特徴のひとつである絣模様の意味や方言で付けられた名称を模様の形から生徒全員に考えさせ、発言してもらった。琉球絣の模様は、一つひとつに当時の自然や日常用具などから考えられた名称や意味がある。授業の中で最も盛り上がった部分で、生徒にとって、黒板に示された模様が何を基に作られ、その意味や方言でつけられた名称を考えることは楽しかったようだ。

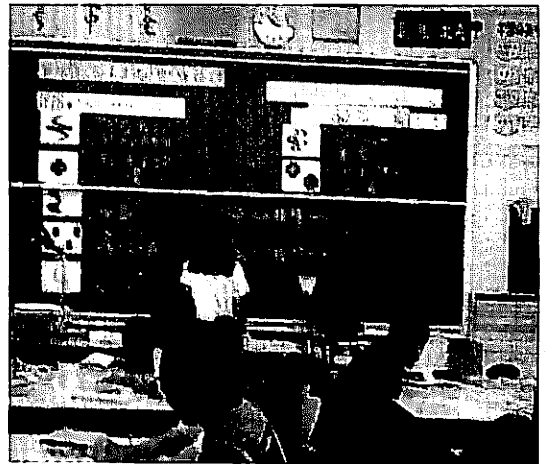


図4 知識的動機づけ・意識的動機づけ

また、尚王家の絣衣装から、そこに使われた模様は、王家しか使用することの出来なかったものがあることを知ることで、さらに琉球絣の知識を深めることができた。

（尚王家黄紬地絣文袴）

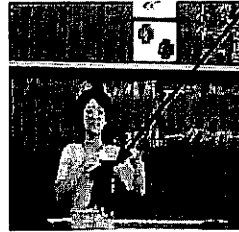
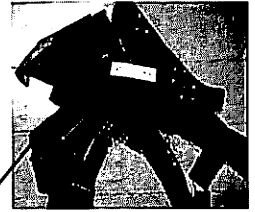
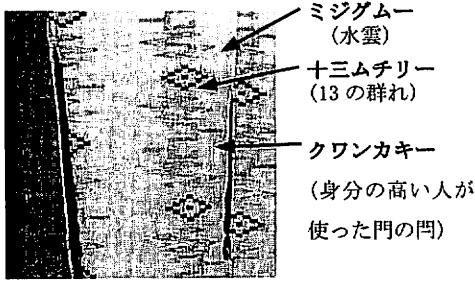


図5 知識的動機づけ・意識的動機づけ

（出典：「尚家継承琉球王朝文化遺産展図録」・筆者一部加筆）

授業後の生徒の感想に、「琉球絣の模様一つひとつに意味や名前があることが分かって、もっと知りたいなと思いました。」「南風原町はすごいと思った。」などがあつた。

㊦. 行動的動機づけ：題材について興味をもち、調べてみたい、生活に取り入れてみたいなど行動につながるような動機づけ。まとめ

授業後半部に、まとめとして行動的動機づけを行なった。琉球絣の布片を手持ちのワイシャツのポケットの縁や襟、Tシャツに縫い付けるとか

図6 行動的動機づけ

りゆウェア風になることや写真立てに入れるだけで手軽に家のインテリアなどになることを紹介した（図6）。

授業後のアンケート調査で、琉球絣の布片を使ってコースターやティッシュ入れ、キーホルダーなどを作りたいという感想があつた。

学習の流れ	動機づけ	評価	予想される生徒の反応 (生徒の活動)	教師の支援	備考
導入 5分	㊦ ㊧	①	<ul style="list-style-type: none"> ・絣を身近に感じる。 ・絣を使った小物や洋服の写真や実物に触れる。 ・OHPを見ることで、南風原町の生活の中の絣を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絣の実物やいくつかの絣布のはぎれを示す。 ・現代風にアレンジされた絣を使った小物や洋服について紹介する ・南風原町の生活の中の絣を見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・近くで実物を見ることで興味・関心が持てるよう動機づけする。 ・かすりのファッションショーのOHPや南風原町役場のタペストリーなどの写真をOHPで見せる。
展開 10分 15分	㊦と㊧と㊨ ㊩と㊪と㊫	② ⑤ ③ ④	<ul style="list-style-type: none"> ・南風原町の琉球絣に歴史についてワークシートに記入する。 ・黒板に提示された12個の絣模様のフラッシュカードの名称と意味を考え、答える。 ・説明を聞きながら、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絣は沖縄から本土へ伝わったことを紹介する。 ・南風原町の琉球絣の歴史について説明する。 ・絣模様を12個フラッシュカードで例示し、その名称と意味を説明する。(トウイグラー、トーニー、バンジョー、クチ・フラチャー、ターチブサー、ジン・ダマー、ミミ・チキ・トーニー、ウシ・ヌ・ヤマ・バンジョー、ミジ・フム、テーチブサー、クワンカキー、ニダマー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄から本土に伝わり広まったことを知り、絣についての初期的動機づけをする。 ・南風原町の琉球絣の歴史を伝えることで知識的動機づけをする。 ・絣模様の数を知らせ、その中から12個プリントで例示する。

10分	㉔	⑤		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに使った着物や尚家の袷着物(黄色)をOHPで示し、今まで学習した絣柄を探すことを提案し、支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに使った着物の実物や尚家の袷着物を使い振り返ることで動機づける。
まとめ10分	㉕	⑥ ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・絣を中学生の生活や服飾に取り入れる方法を知り、取り入れていけるようにする。 ・自己評価、感想をアンケート用紙にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や中学生に身近に感じられる絣を使った服飾を紹介し、知恵へとつなげる。 ・本時の学習内容を踏まえ、身近にある絣について見つけなおしていただくことを提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絣のはぎれを使い服飾や生活の中に取り入れていく方法を伝えることで生活に取り入れていけるよう動機づける。 ・本時に関するアンケート用紙。

● 評価

- ①着物やそれ以外にアレンジされた絣を使った小物や洋服、タペストリー等の存在を知る。(関心)
- ②絣は沖縄から本土へ伝わったことを知り琉球絣に対する関心を深める。(知識、関心)
- ③南風原町の琉球絣の歴史を知る。(知識)

- ④琉球絣の模様の意味を理解する。(理解)
- ⑤琉球の絣文化を理解し、誇りに思う。(態度)
- ⑥生活や服飾に琉球絣の布の利用法を知り、取り入れてみようと思う。(意欲)

3. 4つの動機づけによる授業効果の検討

南星中学校の生徒(179名)に対し、授業効果

表2 4つの動機づけに関する質問

A 初期的動機づけ	A1	授業前：Q. 絣布で現代風にアレンジされた小物などを飾ったり使ったりしていますか 授業後：Q. 現代風にアレンジされた絣布の小物に触れ、使ってみたい、飾ってみたいと思いましたか
	A2	授業前：Q. 南風原町で11月頃行われるかすり祭りに行ったことがありますか 授業後：Q. 南風原町のかすり祭りに行ってみたいと思いましたか
	A3	授業前：Q. 南風原町にはかすり会館がありますが、そこに行ったことがありますか 授業後：Q. 南風原町のかすり会館に行ってみたいと思いましたか
B 知識的動機づけ	B1	授業前：Q. 南風原町の絣の歴史について知っていますか 授業後：Q. 南風原町の絣の歴史について知ることができましたか
	B2	授業前：Q. 絣の柄は、沖縄独自の方法で織られていることを知っていますか 授業後：Q. 沖縄独自の絣柄の作り方(手結い法)について知り、先人(昔の人)の工夫や知恵を感じることができましたか
	B3	授業前：Q. 絣の柄にはいろいろな名前がついていることを知っていますか 授業後：Q. 絣にはいろいろな名称があることを知ることができましたか
C 意識的動機づけ	C1	授業前：Q. 絣は、沖縄のすばらしい文化だと思ったことはありますか 授業後：Q. 先人の知恵や工夫によって作られた絣の織物がある沖縄に生まれたことを誇りに思いますか
D 行動的動機づけ	D1	授業前：Q. 絣を織ってみたいと思いますか 授業後：Q. 絣を実際に織ってみたいと思いましたか
	D2	授業前：Q. 絣柄のかりゆしウエアを自分で着たり、誰かにプレゼントしたことはありますか 授業後：Q. 絣柄のかりゆしウエアを自分で着てみたり、誰か(お父さんやお母さんおじいさんなど)にプレゼントしてみたいですか

を検討するために授業前後に以下の質問をした(表2)。

授業効果について検討した結果は以下のとおりである。

表3 4つの動機づけによる授業効果

	動機づけ		授業	平均値	標準偏差	t値
A	初期的動機づけ	1	授業前	1.67	1.18	6.32***
			授業後	3.48	1.12	
		2	授業前	2.14	1.56	3.51***
			授業後	3.34	1.14	
		3	授業前	3.73	1.72	0.00
			授業後	3.12	1.17	
B	知識的動機づけ	1	授業前	1.75	1.03	2.18**
			授業後	4.44	0.77	
		2	授業前	2.89	1.63	2.67***
			授業後	3.96	1.05	
		3	授業前	3.64	1.60	3.55***
			授業後	4.68	0.65	
C	意識的動機づけ	授業前	4.00	1.13	0.60	
		授業後	3.96	0.89		
D	行動的動機づけ	1	授業前	3.10	1.52	2.91***
			授業後	3.65	1.22	
		2	授業前	1.40	0.97	6.61***
			授業後	3.45	1.11	

*P<.05, **P<.01, ***P<.001

(1) 南星中学校の生徒は地域の伝統的工芸品である琉球絣に対し、驚きや意外性を生徒が感じるような初期的動機づけのA1, A2やもっと知りたいと思うような知識的動機づけのB1~B3, 生徒が地域の文化を伝えていこうと思うような行動的動機づけ(C1, C2)は、統計的に有意であった(表3)。

(2) 意識的動機づけについては授業前と授業後で統計的に有意差は見られなかった。これは、南星中学校の生徒は、琉球絣は地域のすばら

しい文化であるという意識が授業前から高かったことが影響していると考えられる。

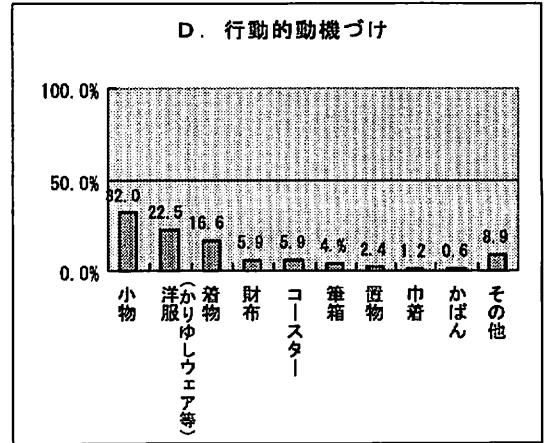


図7 行動的動機づけ

(3) また、授業後のアンケート調査より小物やかりゆしウェアなどを生徒が「今後作ってみたい」、「身に付けてみたい」としている(図7)。生徒のこのような行動は、地域の伝統文化を伝えていくといった動く力へとつながることから、行動的動機づけがなされたとい

表4 南星中学校と与那原中学校の記述部位の4つの動機づけによる分類

南星中学校(n=179) 与那原中学校(n=102)

4つの動機づけ		4つの動機づけ	
A.初期的動機づけ	3.9%	A.初期的動機づけ	6.9%
B.知識的動機づけ	79.9%	B.知識的動機づけ	71.6%
C.意識的動機づけ	3.3%	C.意識的動機づけ	2.0%
D.行動的動機づけ	8.4%	D.行動的動機づけ	6.9%
無回答	4.5%	無回答	16.7%

える。

(4) 方法5(2)の授業効果について、隣町の与那原中学校の生徒は授業前、琉球絣に関する知識や興味・関心がほとんどなかったが、初期的動機づけや知識的動機づけによって興味・

関心を高めることができた。しかし、南星中学校の生徒ほど意識的動機づけや行動的動機づけへとつなげることはできなかった(表4)。

4. まとめ

4つの動機づけを用いた授業を行うことで地域の文化である琉球餅を取り上げた南星中学校の生徒は、地域の文化を伝えていくという働く力へとつなげることができた。しかし、隣町の与那原中学校では興味・関心を高めることはできたが、南星中学校の生徒ほど働く力へとつなげることはできなかった。

琉球餅は、首里織、宮古上布、八重山上布、久米島紬等々にも多く使われている。このような餅全体も琉球餅と呼ぶ(沖縄文化社、2000)。琉球餅を地域教材として取り上げるとき、首里では首里織を、宮古では宮古上布、久米島では久米島紬をなどというように、その土地での素材を取り上げ、その中で扱われている琉球餅を教材化していくことが、生徒たちに地域教材への関心を持たせ、行動的動機づけに有効であるといえる。

IV 謝辞

本研究にあたり、アンケートや授業実践に協力して下さった南風原町立南星中学校(松元憲雄2004, 2005年度校長)、与那原町立与那原中学校(大城侑2003年度校長, 兼本清弘2005年度校長)の生徒の皆さん、アンケートに協力して下さった南風原町立南風原中学校(新里光子2004年度校長)の生徒の皆さん、金城美佳氏(2004, 2005

年度南星中学校家庭科教諭)、奥田聡子氏(2003, 2005年度与那原中学校家庭科教諭)、金城さゆり氏(2004年度与那原中学校家庭科講師)、赤嶺英子氏(2004年度南風原中学校家庭科教諭)に感謝いたします。

アンケートの分析法については、島袋恒男先生(琉球大学教育学部教育心理学専修)にご助言をいただき、お礼申し上げます。

本研究は、2005、2006年度科学研究費補助金(研究代表者:富士栄登美子, 基盤研究C, 課題番号17500509)の援助を受けていることを申し添えます。

引用文献

- Chamberlain, V. M., and Cummings, M. N. (2003) : *Creative instructional methods for Family & Consumer Sciences, Nutrition & Wellness*. Glencoe / Mc Graw-Hill, 246-247
- 富士栄登美子(2005): 琉球餅の現在—その意匠と活用. 日本家政学会誌, 56巻, 5号, 343-351
- 富士栄登美子(2006): 地域教材(琉球餅)を生かした中学校家庭科授業実践(1)—4つの動機づけの視点から—. 琉球大学教育学部紀要, 第68集, 145-149
- 沖縄文化社(2000): 沖縄の伝統工芸. 沖縄, 沖縄文化社, 46
- 多喜ゆみ子(2006, MS): 地域教材(琉球餅)を生かした中学校家庭科教育の授業研究—動機づけの視点から—. 琉球大学教育学研究科家政教育専修修士論文, 136p